



特定非営利活動法人

令和 7 年 新年号 NO.70



<http://nepal-mika.jp>

ネパール・ミカの会

令和 6 年 12 月 20 日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36 tel042-791-0602



「謹 賀 新 年」

理事長 齋藤 謹也

「一瞬の夢のよう」

副理事長 加藤 誠一



会員の皆様のご理解とご協力が続いていますことに、まず感謝申し上げます。

そして、新型コロナ禍を乗り越えて、尚、会のまとめをしっかりとこのと理事会に集まり、従来イベントの参加をしながら活動を継続している理事さん達、そして現地で支援活動をしているラマ理事の努力に対しても、改めて感謝をしたいと思います。

私が理事長をしている理由の第一が、援助中心地ルンビニが仏都である事で、僧侶である私を置いていた方がと考えての事と思います。でも、よく奇跡的に 4 分の 1 世紀継続したものと感慨深いものがあります。これは物故された二人の副会長、そして今をまとめている加藤副会長と理事のおかげです。常にネパールの教育支援の前進をしてこれたのは会員の方々はもちろん、篤志の人達による多額の協力によつての事と思います。見返りを求めず、ただ自分達にできる力を、ネパールの子供たち、ルンビニの子供たちの笑顔を思い描きながらの歩みでした。でも、支援していることもあります、逆に私たちは人生の生き方として、大事なかけがいのないものをいただいています。

高齢化し息切れしているような今日ですが、もう少し胸を張って支援から得られた「意義」を省みながら、前に少しでも進めていきたいと思っています。支援の皆様のご情報も聞かれます。ご冥福を祈ります。「めにみえるもの」「めにみえないもの」それぞれのご縁、つながりにこの会が大きな役割をはたしている事を、喜びましょう。

会報の編集をしながら古い資料に目を通しています。28 年のあゆみは簡単には振り返れないほど多くの活動・成果を上げてきました。私がネパールにはじめて行ったのは齋藤理事長に誘われて 1997 年ルンビニでした。最初の一歩でマホマディア小学校訪問です。

旅の参加者はたくさんの感動を持ち帰り、はじめての校舎建設シリ・マズワニ小学校と続いています。

多くの寄附金や助成金で校舎の建設、図書支援、制服支援と活動は広がり 2003 年 NPO 法人の設立に至りました。

創立 10 周年から 15 周年にかけて活動はますます盛んになり国内でのバザーは年間 10 回を超えるほどとなりました。教育支援の旅はネパールのみならず周辺国への訪問も行い視野を広めてまいりました。

2011 年東日本大震災、2015 年ネパール大地震そしてコロナパンデミックと多くの災害・困難がありました。その間も支援を継続することができたのは会員の皆様、ネパールのラマ理事のご理解と協力があったのでした。

しかしながら、創立 25 年を超え、会員の減少、高齢化が進み以前のような活動が不可能となつてまいりました。

NPO 法人としての責務はしっかり果たしてまいりましたが、今後大きな重荷となって来ると考えられます。一度立ち止まってしっかり将来を見極めようと思います。



和田 泰子

前日まで悪天候が心配された今年の夢広場でしたが、11月3日は晴天の特異日とあって、秋晴れの日となりました。

町田発国際ボランティア祭り「夢広場」は今年26回となり、ミカの会の28年に及ぶ長い歩みとも深く関わってきました。ミカの会の教育支援は1996年にネパールの釈尊生誕地ルンビニを訪問した6名の方々が、雨漏りの校舎で学ぶ子どもたちと出会い、1997年にその小学校の屋根を修復したことをきっかけに始まりました。

会報69号でも少し触れましたが、夢広場はその翌年1998年7月にミカの会の呼びかけで、当時の東急デパート中央の広場で第一回が開催されました。

その時ミカの会会長だった齋藤謹也理事長が初代実行委員長に就き、その後、今村旭副理事長（故）、稲野茂正氏（アムネスティ・インターナショナル日本町田グループ）山口美知子氏（当時国際ソロプチミスト町田・さつき）にバトンタッチされて26回まで走ってきました。稲野氏、山口氏はミカの会会員としても長い間ご支援頂いています。



「夢広場」の名称は、ミカの会発足時に事務局を担当していた坂育夫氏の発案かと思います。齋藤理事長は今、名誉実行委員長を務められています。私も微力ながらミカの会から夢広場担当として運営委員会に参加し、ここ10年あまり会計を担当しています。

昨年の夢広場は第25回特別記念として民芸品等の物販部門（ぼっぼ町田）とステージ部門（町田市民フォーラムホール）の2日間に分けて開催され、ミカの会はステージ部門では第22次教育支援の旅を映像に纏めて報告しました。

今年の夢広場はぼっぼ町田での一日開催に戻りましたが、発足時副実行委員長だった加藤誠一副理事長の開会宣言に始まり、セレモニーでは齋藤名誉実行委員長がスタート時の夢広場について語られたことは、感慨深いものがありました。

この所、民芸品の在庫が少なくなって心許なかったのですが、会員また理事の方々からネパール紅茶ウーロン茶・手作り品、ネパール岩塩、民芸品等のご寄付を沢山頂き、お陰様でとても賑やかなブースになりました。

お客様からミカの会の活動について色々質問されたり、他団体との交流も有意義でした。

夢広場は「この星に平和と希望を」をずっと大テーマに掲げてきましたが、昨年と今年はサブテーマを「希望の光をともしは」として、夢広場宣言でも心の中に平和のとりでを築く場となることをうたっています。宇宙から見たらホントに小さな美しい星・地球の上で辛い思いをしている沢山の人々・子どもたちに思いをさせ、穏やかな日々が訪れることを願ってやみません。



今期のネパール支援としてはシリ・マズワニ中学校の補修工事などを予定しております。1月にラムさんがルンビニ入りして工事を行う予定です。尚、3月上旬から中旬にラムさん来日の計画もありますので楽しみにお待ちください。詳細は改めてお知らせいたします。



2日間晴天に恵まれ久しぶりのバザーを楽しませていただきました。



10月の町田大道芸・11月の夢広場の出店で本年度のバザーは終わります。数年前の大忙しのバザー出店の頃から見ると少し寂しい限りですが、コロナを境に減少となりました。イベントの開催そのものが減った事もあります、ミカの会の活動可能な会員の減少もあります。食バザーは準備を含め多くの労力が必要とされますし、運搬その他の協力も必要です。そんな背景で少なくなった事も理解してください。

☆☆☆ 2023.10.07-08 町田大道芸 ☆☆☆

パークアベニュー商店会さんのご厚意により、本年も 10 月 12 日・13 日両日に町田大道芸 2024 にバザー出店させてもらいました。設営から何から何まで準備していただいて本当にありがたいバザーです。

ネパールの民芸品を中心にリサイクル品の販売をします。細かい売り上げではありますが、購入者と短い会話の中でネパールを紹介したり質問をお受けしたりとなかなか楽しい事も多いです。

毎年楽しみにしている方もいらっしゃるようでバザーの品物をしっかり見ておりました。

会員の中にもいろいろ個性がありますので、お客様と親しく上手に販売する方もいますし、控えめで後方支援に回る方もいます。

こうしたバザーは売り上げも大事ですが、会員の交流・結束を深める良い機会となっています。また忙しくてなかなかお会いできない会員もバザー会場に顔を見せてくれたりととても嬉しい場となります。

そもそも、町田大道芸のバザーに参加することになったのは加藤副会長と会員の齊藤孝さんが同級生で、兩人ともパークアベニューの竹内会長とは先輩・後輩の中でもとても親しくしており、商店会もこうした国際ボランティアの支援や災害地の支援活動もしていくべきと言う前向きな姿勢がミカの会の支援につながりました。

東日本大震災の支援も私たちミカの会と同様に長いこと支援をしてくれていました。

商店会でこうした視点を持つことはごく稀であり、商店会も社会の一員であると言う革新的思考と思います。

改めて、パークアベニュー商店会の会長さんはじめ、スタッフの皆様、大道芸人の皆様、温かい気持ちと支援に対し心から感謝申し上げます。

何年にも渡る支援はネパールの子供たちに校舎や図書そして制服となって直接手渡ししていることを報告させていただきます。



1998 年夢広場の第 1 回です。今は無い東急の噴水広場と呼ばれた広場の開催でした。ミカの会がほとんどの役目を背負ってのスタートでした。



【編集後記】

まず、会報発行が遅れて申し訳ありませんでした。ご存知の様にコロナが落ち着いたとは言え、世界中戦火が絶えません。円安も進みすっかり落ち着いてしまいました。航空運賃も高止まりで、混雑も酷い状況です。そんな環境の中ネパール教育支援の旅も本年度は実施されませんでした。残念なことです。

会員の高齢化で長旅が厳しくなったと言う事、経済的な負担も少なくない事。以前の様に活発な活動もできなくなった事などが理由です。もう一つの原因はネパールも経済的な発展が著しく電気や燃料、水道などのインフラも整い、都市部は急激な近代化が進んでいます。

ルンビニでも子供たちの衣服、靴など見ても支援開始当時に比べて雲泥の差です。校舎も多く建設され PC など整備されています。私たちの様な純粋に民間の小規模な支援では行き渡らない様な金額が必要になってしまいました。

ネパールの子供たちに教育の必要性そして子供たちに夢を与えたミカの会の功績は特別に大きいと自信を持って言えそうです。

在日ネパール人が 20 万人を超えました・共に歩んでいきましょう。